



国道40号 ジュネスハウス3と顕正寺の間に設置された信号機

信号機

が国道に設置されました

国道40号字北町に、旧中
和小学校前に設置されてい
た手押し式信号機が移設さ
れ、町内の交通安全関係団
体の皆さん、町と合同で警
察に要望した関係機関など
約50名が参加し、10月13日
に点灯式と横断歩道の渡り
初めを行いました。



小学生による初めての横断

信号機の点灯は和寒小学校児童会長
の石田凜花さん(6年)が行い、初め
の押しボタンは近くに住む齋藤陽奏
くん(2年)と菊地晃也くんが押し、
小学生8名が横断しました。

これまで、駅から北側には駅前カセ
ブレイブ前には信号機がありま
せんでしたが、町や自治会からも「無
理な横断による交通事故を防ぐため
にも信号機を設置してほしい」と以前か
ら要望していました。

昨年11月に町、交通安全協会、小学
校、中学校、自治会連合会、PTAの
連名であらためて要望書を提出し、こ
の度、土別警察署の多大なご協力によ
り設置が実現しました。

これからの家庭教育 ～親子のコミュニケーション～

仕事でも、家庭内でも、コミュニケーションが重要であることは疑いようのない事実です。社員と顧客、上司と部下、親と子ども、どれをとっても別々の立場や考え方があるため、「言わなくても分かる」ということはあまりありません。今回は親子のコミュニケーションの手法について考えてみましょう。

○対話と傾聴

「自分は子どもの話を聞いているほうだ」という自負のある方、そうでない方々だと思いますが、そもそも子どもと対話する目的はいったいなんでしょうか。

子どもの話を聞いていると、発達段階に応じた、つたない言葉で色々な説明をしてきます。それを聞いている親はやきもきしながら「いったい何を言いたいのだろうか」と予想し

対話の傾聴	
共感	同意
相手がどう感じているかを理解すること	相手の考えに賛成すること

ながら聞いているのではないのでしょうか。その結果、対話の途中でも親の中で合点がいくと子どもの言葉をささぎって、正しいとされることを子どもに指導することがあります。このやりかたなら、子どもは確かに「正しいとされること」を知ることではできるよう。(それが正しいか間違っているかは別にして)しかし、その子どもの気持ちはどうなるのでしょうか。自分の行動根拠の何が間違っているかも分からず、親への信頼関係は作られないままではないのでしょうか。大切なことは、話を聞いてまず共感することです。その話の内容に同意できるかどうかはその後の話です。そうすれば子どもは自分の思い・考え方を親にわかってもらえたと感じ、親への信頼は一層厚いものになるでしょう。

最初の疑問の答えとして、子どもと対話することの真の目的は、正しさを押し付けることではなく、「子どもの考えについて話すこと」です。

親にとってはちょっと面倒ですが、子どもに共感することで、“子が親と心を通わせ、子ども自身の意思決定能力を磨く”ことができるのではないのでしょうか。

